

【各病院コースの特色】

市民総合医療センターコースの特色

救急医療からがん治療まで 広く活躍できる Generalist を目指して

市民総合医療センターは大学病院として高度専門医療を提供するとともに、地域救急医療の「最後の砦」として緊急性の高い患者さんや重症患者さんの救急診療を行っています。救急・集中治療をはじめ様々な領域の症例について、各専門知識を持つ薬剤師が指導を行い幅広い領域で活躍できる Generalist を育成します。

救急・集中治療に薬剤師の専門性を活かす

高度救命救急センターは、3次救急医療機関、横浜市重症外傷センターに指定され、重症外傷、熱傷、中毒、循環不全(ショック)等の治療を行っています。薬剤師はEICU、救命病棟、救命後方病棟の3病棟に配置され、日々刻々と変化する患者さんの状態をモニタリングし、安全で効果的に薬を使用できるように努めています。豊富な症例から、重症患者の集中治療における薬学的管理について習得します。



がん治療の一角を担う薬剤師外来

一部のがん治療において医師の診察前に薬剤師が面談する「薬剤師外来」を行っています。薬剤師外来では、医師の診察前にかん領域の専門・認定薬剤師が面談を行い、がん治療を円滑に行うために必要な支持療法を考察・医師へ提案しています。知識と判断力が問われる業務ですが、抗がん剤治療の副作用をマネジメントすることで患者さんの苦痛を軽減し治療の効果を高め、チーム医療の一員として患者さんの治療をサポートしています。レジデント期間での研修も予定しています。



ハイリスクな出産や新生児をサポート

総合周産期母子医療センターでは、神奈川県周産期救急システムの基幹病院として多くの産科救急・新生児救急患者を受け入れています。担当薬剤師は新生児特定集中治療室（NICU）における処方内容の確認や薬物投与設計（TDM）を行っています。薬物治療を継続しながら母乳育児を行う場合は、母乳への移行性など随時薬剤情報提供を行っています。また、当院は「妊娠と薬情報センター」の拠点施設です。妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師が在籍し、妊娠と薬外来で医師と共に妊娠や授乳に関する支援をしています。研修では、NICU を中心に周産期領域における薬剤師の関わりを学びます。



移植医療へ薬剤師として関わる

当院は県内トップクラスの件数で腎移植を施行しています。腎移植では、免疫抑制剤をはじめとした多くの薬剤が使用されます。また、退院後も長期に渡る服薬継続が求められます。担当薬剤師は各薬剤のモニタリングや服薬指導を行い、腎移植を支えています。移植に関連する一連の薬学的管理や服薬指導について研修します

「地域に根差した病院」で学ぶ医療連携



当院は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けた、地域密着型の大学病院です。

薬剤部は長年に渡り地域薬剤師会との協議会を継続しており、近年では処方せんへの検査値記載や、トレーシングレポートを活用した患者情報共有を行うなど積極的に薬薬連携を行っています。がん領域においては研修会や薬剤部ホームページでのがん化学療法レジメンの公開に取り組み、令和2年度には診療報酬改定において当院をモデルとした「連携充実加算」が新設されました。今後の医療現場では地域との医療連携充実が重要視されています。当院での先進的な医療連携を学んでみませんか。



レジデントフォローアップ体制の充実

他院にてレジデント経験のある職員又は先輩レジデントが、レジデント生活上のフォロー、研修上のフォローを行います。
困ったことは何でも相談できる立場として皆さんをフォローします。



大学内・病院内の各種研修会の充実

医療安全講演会、感染対策講演会をはじめ、臨床研究セミナーなど、各種研修会については自由に参加いただけます。
大学病院ならではの教育体制にて研修をフォローします。



プレゼンテーション能力向上・学会発表の支援

定期的に症例報告などのプレゼンテーションを行うことで、能力向上を目指します。
2年次には学会発表も行います。学会発表の経験を有する指導薬剤師がテーマの選定からサポートします。



2 病院合同研修会の開催

附属病院、センター病院で合同の研修会を開催します。
それぞれの病院の強みを活かし、専門認定等の資格を有する薬剤師が講師になり、基礎知識を講義します。

意欲あるレジデントのみなさまを職員一同全力でサポートいたします。
ご興味のある方はぜひ応募ください。



